(社)日本原子力学会　標準委員会　原子燃料サイクル専門部会

第１回　LLW 放射能評価分科会（F10Ph2SC）議事録

１．日時　　2007 年 11 月 22 日（木）　13:30～15:30

２．場所　　日本原燃(株)　東京事務所　第一会議室

３．出席者　（順不同，敬称略）

（出席委員）川上（主査），岩崎（副主査），片寄（幹事），柏木，黒澤，佐々木，宿谷，関口，田中，傳田，中島，中田，福村，古谷，見上，渡邉（16 名）

（代理出席委員）片岡（脇代理）

（欠席委員）高橋，森本（2 名）

（常時参加者）浅野，飯田，五十嵐，大塚，大間，尾崎，北村，小西，駒月，札本，邉見，三根，村木，山田（14 名）

（欠席常時参加者）熊野，三宅（2 名）

（事務局）岡村

４．配布資料

F10Ph2SC1-1　標準委員会の活動について

F10Ph2SC1-2　人事について

F10Ph2SC1-3　余裕深度処分廃棄物の放射能濃度決定方法の学会標準作成において検討が必要となる主な事項について

F10Ph2SC1-4　「原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順」　標準化した主要内容について

F10Ph2SC1-5　分科会の今後の進め方について（案）

F10Ph2SC1-参考 1　低レベル放射性廃棄物の放射能濃度評価方法の標準化について(分科会設立趣意書)

５．議事

（１）出席委員の確認

事務局より，委員 19 名中，代理委員を含めて 17 名の出席があり，決議に必要な委員数（13 名以上）を満足している旨の報告があった。

（２）標準委員会の活動について

事務局より，F10Ph2SC1-1 に沿って，標準委員会の組織図，活動状況，関連規約，分科会決議から発行までのスケジュールについて説明があった。

（３）人事について

ａ．主査の互選

事務局より主査の選任方法の説明の後，出席委員（17 名）による主査選任の無記名投票が行われ，川上委員 11 票，岩崎委員 5 票，高橋委員 1 票により，川上委員が主査に選出された。（委員総数の過半数以上（10 票以上）で選出）

ｂ．副主査の指名

主査より，岩崎委員が副主査に指名された。

ｃ．幹事の指名

主査より，片寄委員が幹事に指名された。

ｄ．分科会代表者の選任

主査が分科会代表者に選任された。

ｅ．常時参加者登録の承認

事務局より，F10Ph2SC1-2 に沿って，常時参加者登録希望の 16 名の紹介があり，決議の結果，全員の常時参加者登録が承認された。

また，出席者全員で自己紹介を行った。

（４）余裕深度処分廃棄物の放射能濃度決定方法の学会標準作成において検討が必要となる主な事項について

F10Ph2SC1-3 に沿って，柏木委員より標準策定にあたり，検討が必要となる主な事項について説明が行われた。特に質疑等は無かったが、主査から分科会各委員の共通認識とするため、埋設処分、特に余裕深度処分についての概略を次回にでも説明して欲しいとの意見があった。

（５）「原子力発電所から発生する浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に関する基本手順」　標準化した主要内容について

F10Ph2SC1-4 に沿って，尾崎常時参加者より，先行して制定されている浅地中ピット処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法について，標準化の概要について説明が行われた。

主な議論：

・ 実際に利用されている方法としては，スケーリングファクタ法と平均放射能濃度法のみか。

→ 資料の 33 ページに日本原燃の申請している核種とその評価方法が記載されているが，そのほかに非破壊外部測定法と理論計算法（Ni-59）が利用されている。

（６）分科会の今後の進め方について

F10Ph2SC1-5 に沿って，片寄幹事より本分科会の進め方について説明が行われた。

主な議論：

・ 趣意書（F10Ph2SC1-参考 1）にある，極低レベル放射性廃棄物等の標準化はどうなるのか。

→ 趣意書の 4 ページにあるとおり，余裕深度処分を先行して策定し，その後順次標準化を行う。

（７）本分科会名称について

・ 事務局より，本分科会の名称は趣意書では「低レベル放射性廃棄物放射能評価分科会」となっているが，他の分科会同様，低レベル放射性廃棄物を LLW と略して，「LLW 放射能評価分科会」としてはどうかと提案があり，全会一致で決議された。

６．今後の予定

第 2 回分科会は，　12 月 20 日（木）13:30 より開催することとした。

以　上